

- ・ CPUE (11月) は2006年以降で最も高い
- ・ 平均体長 (11月) は2006年以降で最も小さい
- ・ 計量魚探調査で見られた魚群数 (11月) は2013年以降で最も多い

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域(図1)において、試験調査船北洋丸により、着底トロール調査(原則6回曳網)と計量魚群探知機調査を実施しており、それらの調査結果から総合的に0歳魚の資源豊度を推定しています。

今回は、2019年11月5~10日に実施した第2回調査の結果を報告します。

1. 着底トロール調査の結果(2019年11月)

- ・ 0歳魚CPUE(曳網1マイルあたり採集量)は2083.9kg/nmiで、2006年以降の14年間で最も高い値でした(表1)。
- ・ 0歳魚の平均体長は約189mmで、2006年以降の14年間で最も小さい値となりました(図2)。この調査で0歳魚の平均体長が小さかった年級群は資源豊度が高い傾向があります(図3, 4)。

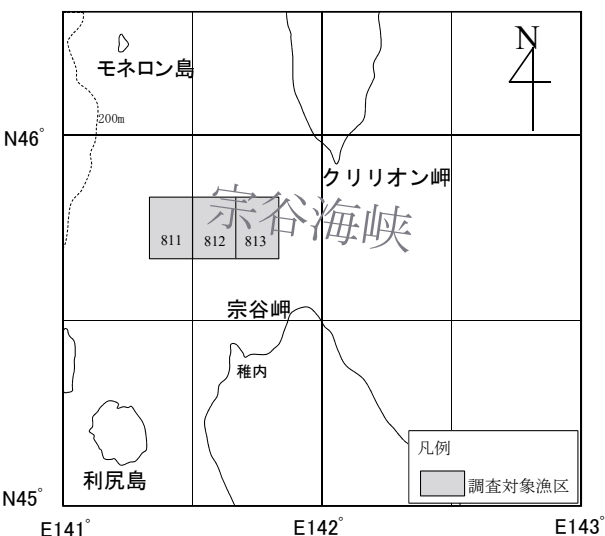


図1 調査海域

表1 着底トロールにおける0歳魚CPUE (kg/nmi)

調査年	10月	11月
2006	0.1	312.6
2007	213.6	121.5
2008	18.4	794.9
2009	107.6	218.4
2010	0.1	6.8
2011	7.1	8.4
2012	3.3	50.4
2013	75.0	10.2
2014	0.7	30.4
2015	5.1	59.1
2016	0	2.4
2017	155.7	217.4
2018	3.6	136.1
2019	3.5	2083.9

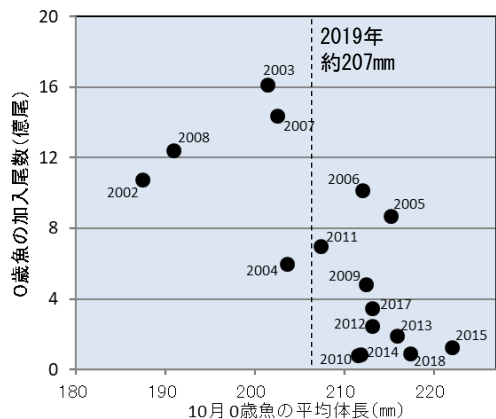
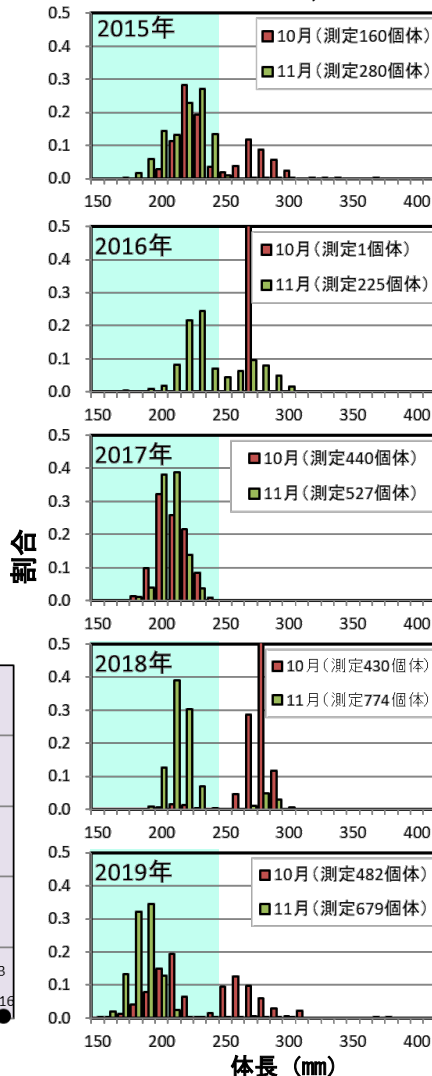


図3 0歳魚の平均体長(10月)と加入尾数の関係

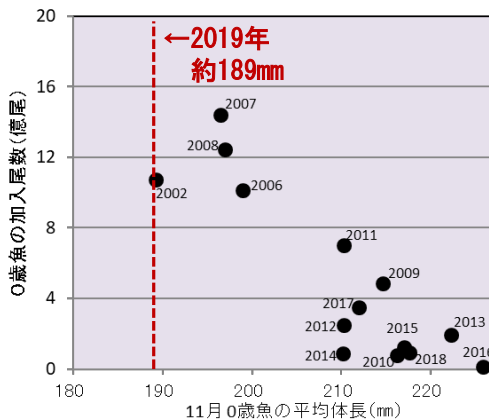


図4 0歳魚の平均体長(11月)と加入尾数の関係

図2. トロール採集物の体長組成(網掛け部分は0歳魚)

2. 計量魚群探知機調査の結果（2019年11月）

魚探調査ライン（図5）におけるホッケの魚群数※は合計66個となり、魚探調査を開始した2013年以降で最多となりました。特に北側ラインでの発見数が大部分を占めていました。なお、10月では本調査と比べ少ない魚群数でした（図6, 7）。

※魚探の低周波と高周波に映るそれぞれの特性の違いを利用するほか、トロール調査時の魚探反応も参考にして、ホッケ魚群を視覚的に抽出しています。

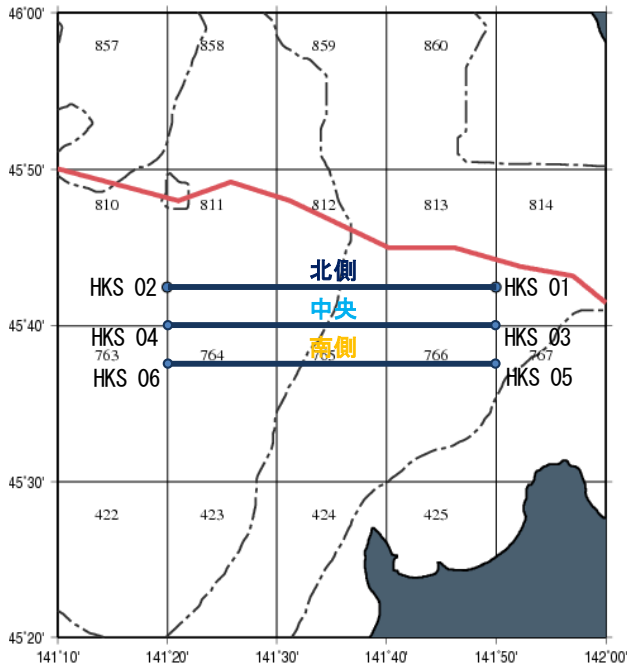


図5 魚探調査ラインの位置
（合計航走距離：約63マイル）

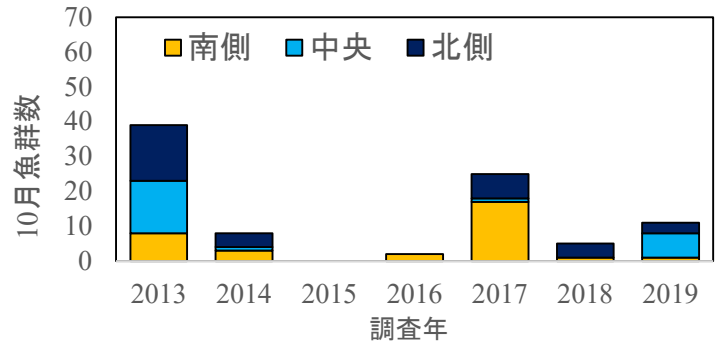


図6 調査ラインごとの魚群数（10月）

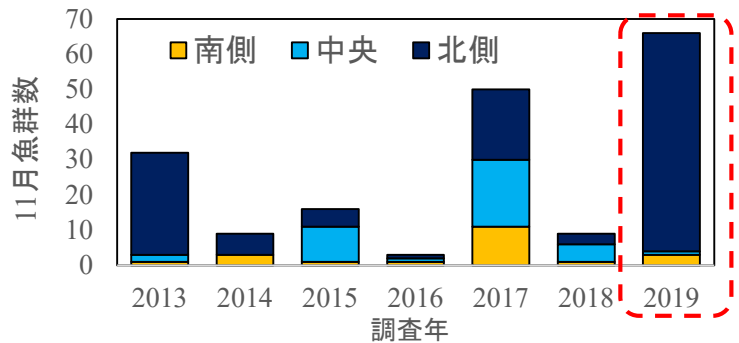


図7 調査ラインごとの魚群数（11月暫定値）

まとめ

- ・トロール調査で採集された0歳魚のCPUE，平均体長および魚探魚群数から，**2019年生まれの豊度は近年では高水準**であると推定されます。
- ・これまでの取り組みによる資源回復の傾向がより明瞭となってきました。ただし，現1歳魚の2018年級の資源量は多くなく，道北群全体の資源も依然低水準であることから，**2019年級についても初回産卵する来秋**にかけ，できるだけ親魚につなげていく努力を続けていくことが重要です。

過去の報告結果はこちらから参照頂けます

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/wakkanai/section/zoushoku/f1hig4000000h4n.html>